

4.11 生態系

(1) 現況調査

1) 調査内容

① 地域を特徴づける生態系を基盤とする環境単位の区分の設定

地形、地質、土壌、水系、植生等に基づく環境単位を設定し、環境単位ごとの動物、植物の種の構成、環境単位相互の関係及び周辺環境との関係を調査する。

② 地域を特徴づける生態系の指標となる着目種の抽出

上位性、典型性及び特殊性の視点から、地域を特徴づける生態系の指標となる着目種を抽出する。

③ 着目種の生態

調査項目は、抽出した着目種の一般的な生態や行動圏、利用密度等とする。

④ 着目種と関係種（着目種の生息・生育に関係する種）との関係

調査項目は、食物連鎖の関係等とする。

⑤ 着目種及び関係種の生息・生育環境を規定する非生物環境の状況

調査項目は、地形、地質、土壌、水系等の環境とする。

2) 調査方法

「4.6 水象」、「4.9 動物」、「4.10 植物」等の現況調査結果を整理することを基本とし、生態系の基盤となる環境を類型区分し、各類型区分に依存する調査地域を特徴付ける動植物（上位性、典型性及び特殊性）の生息・生育状況から生態系の特徴を把握する方法とする。

3) 調査地域・地点

調査地域は、「4.9 動物」及び「4.10 植物」の調査範囲と同様とする。

4) 調査期間・頻度

調査期間・頻度は、「4.9 動物」及び「4.10 植物」の現況調査の調査期間・頻度と同様とする。

(2) 予測

1) 予測内容

① 造成等の工事並びに造成地の存在による着目種と関係種との関係への影響の程度、着目種及び関係種の生息・生育環境への影響の程度

予測項目は、工事の実施並びに造成地の存在による着目種と関係種との関係への影響の程度、着目種及び関係種の生息・生育環境への影響の程度とする。

2) 予測方法

本事業の計画による植生及び地形の改変と動物、植物の生息・生育確認位置との重ね合わせにより得た情報を基に、類似事例及び既存知見等による推定により予測する。

3) 予測地域・地点

予測地域・地点は、現地調査の調査地域・地点と同様とする。

4) 予測時期等

予測時期は、工事中及び供用時とする。

(3) 評価

1) 評価方法

生態系への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかどうかを明らかにするとともに、埼玉県や桶川市が環境基本計画等により定めた動物・植物・生態系の保全に係る目標等と予測結果との間に整合が図られているかどうかを明らかにする。

2) 環境の保全に関する配慮方針

- ・着目種をはじめとする植物種については、必要に応じて移植などの環境保全措置を検討する。
- ・工事に伴う騒音、振動による影響の軽減を必要に応じて検討する。
- ・工事中に発生する濁水の流出防止対策を実施し、下流域の生物への影響を低減する。
- ・緑地公園等の植栽樹種は、現存植生の構成種を考慮し選定する。また、施設用地内の緑化の推進に努めるよう働きかけ、緑地の創出を図る。